

池坊学園短大

伊藤きやう

有本 翠

○金築百合恵

広瀬 都

1. 今日の衣生活においては、洋服の占める割合が大変大きくなっているが、和服はなんと言っても日本固有の服装であり、その美しさは世界のどの国の衣服にも負けないものである。私達女性の心の中には和服に対する郷愁がいつも抱かれている。また、国際的にも和服に対する関心は非常に大きい。そのような中で和服を美しく製作し、美しく着付けるように工夫研究しなければならない。例えば寸法についても一般に行なわれているものは、明治以来ほとんど変化していないことが多いし、着付けである程度寸法の合わない欠点も補えることが、かえって研究をおこたってきたのではないかと考える。私達短大の被服を担当しているものにとって、洋裁の面では採寸にも個人的に細かい点まで考慮するが、和裁については、標準寸法に頼り過ぎる点が多い。和裁にも洋裁と同じように体型上から各部の寸法を各人に合わせるよう、なお着付けた後のシルエットを美しくするように工夫してみたいと考える。

2・3. 今回は衿付線と脇線について工夫した。衿付線については、頸囲と肩肉付、胸幅、背幅などによって抱幅、繰越し、衿肩明の寸法に個人差が出てくるし、脇線についてはヒップの寸法と裾囲の寸法の関係が体型によって違ってくるのが当然である。衿付線については、肩から胸に美しい線が流れるように（不要なしわが出ないように）また脇線については裾幅が余って美しさをそこなわないよう各種体型について工夫実験したことを報告する。